

露の陽熱促成栽培に関する試験

橋口満男・吉武貞敏・三善重信

福岡県農業試験場

HASHIGUCHI, M., YOSHITAKE, S. & MIYOSHI, S. Experiment on the Growth Acceleration of Butter-burr by Means of the Action of Solar Heat

I 緒 言

北九州においては8月～10月の夏季と3月～4月の春期に蔬菜の不足を来すが寒地のそれに比し春季は冬季の寒さが比較的軽く大して問題とならない様であるが生鮮食料品の特性として量のみで解決出来ない問題もあり、種々の蔬菜が組合され生産、出荷される事が望ましい。露は従来所謂露地物として県内産が若干出荷されて来たが、遠く愛知県等から早期出荷として相当量が移入せられている現状であるので、気象条件等大差ない県内においてその栽培方法について検討する必要を認め、特に3月～4月出荷として有利な方法を確立せんとして若干試験を施行し、その結果を得たので報告する。

II, 供試材料並びに試験方法

(1) 供試品種, 愛知早生露

(2) 区別, 1区制, 3坪

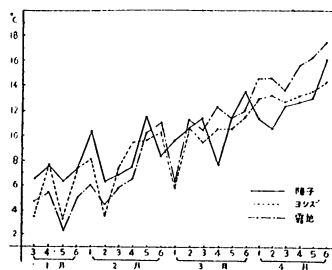
昭和27年春	}	1区, 冷床覆障子による方法
		2区, 冷床覆ヨシズによる方法
		3区, 無処理(冷床標準)
昭和28年春	}	1区, 冷床覆(梨地)ビニールによる方法
		2区, 冷床覆障子による方法

III, 試験成績並びに考察

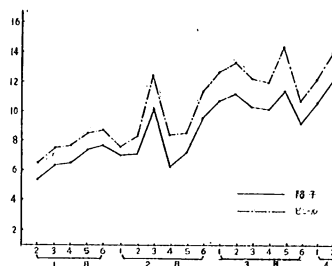
(1) 各区の地温比較

各区の地温測定は地表下2寸で10時及び14時の2回行いこれを平均すると第1図(昭和27年)第2図(昭和28年)の如くである。第1図に依ると1月～2月一杯の地温は障子区, ヨシズ区, 露地区の順に高い傾向であるが3月以降はこの関係が逆の結果を示している。これは厳寒時の気象条件が影響するものと考えられ、被覆物の無い露地程降雪、降霜に依る地温の

第1図 昭.27年温度比較



第2図 昭.28年温度比較



低下並に日中受けた陽熱の放散が甚だしい。3月以降に於ては比較的温暖な晴天が多く、このような天候の日は露地程日中の気温の上昇が急速で覆区の場合はその影響が緩慢であることによるものと考えられる。なお、各区の地温差は障子区に比し、ヨシズ区は約1°C、露地区は約2°C、低く、地温の較差は露地区程甚だしく覆区程少なかつた。第2図はビニール区と障子区の比較であるが終始ビニール区の温度が高く厳寒時の最低地温も障子区以上に高かつた。以上を露の生育条件から考察して見るとビニール区並びに障子区は極端に温度が低下する事なく露の萌芽並に伸長を促進した。中でもビニール区が萌芽並びに生育速度が速であつた。ヨシズ覆区は前者より少々変化が大であるが生育伸長には支障を認めず露地区は温度の変化が急速で、

萌芽生育も他区に比し遅く、若干の障碍が見受られた。

(2) 収量調査成績

調査の成績は第1表、第2表(昭和27年)第3表、

第4表、(昭和28年)の如くである。早期出荷の場合における露の長さは市場の取引面より考えると8~10寸程度で充分その価値を認められる点から、障子区、ビニール区では2月下旬の出荷が可能となり、しかも柔軟で品質極めて良く、収量収益共に多く集約的

第1表 収量調査 (1区3坪) 昭和27年度

区 別	項 目	收穫月日	收穫本数	收穫重量	一 本	平 均	平 均	單 價 (5本1束)	金 額
					平均重	葉柄長	葉 徑		
1 区 (障子掛区)		月 日	本	匁 匁	匁	尺	寸	円	円
		3. 13	105	1,250	11.9	1.55	8.5	36.00	750.00
		3. 15	265	1,945	7.4	1.56	7.5	16.00	848.00
		3. 22	208	2,135	10.3	1.57	7.0	19.00	790.40
		3. 28	122	1,358	11.1	1.72	7.5	17.00	418.80
	4. 7	110	1,303	11.8	1.51	7.7	17.00	374.00	
	計		810	7,991	10.5	1.58	7.6	21.00	3,183.20
2 区 (ヨシズ掛区)		3. 22	139	1,260	9.1	1.35	6.0	17.00	472.60
		3. 28	83	925	11.1	1.35	7.0	16.00	265.60
		4. 7	227	2,651	11.7	1.76	8.6	14.00	635.60
		計	449	4,836	10.6	1.49	7.2	15.67	1,383.80
3 区 (標準区)		4. 7	60	1,070	17.8	1.39	6.2	14.00	168.00
		4. 9	20	286	14.3	1.40	6.5	12.00	48.00
		計	80	1,356	16.1	1.40	6.3	13.00	216.00

第2表 区別比較 (3坪平均) 昭和27年度

区 別	項 目	初收穫日	收穫本数	收穫重量	一 本 平均重	平 均 葉柄長	平 均 葉 徑	平均單價	金 額
1 区		月 日	本	匁 匁	匁	尺	寸	円	円
		3. 13	810	7,991	10.5	1.58	7.62	21.00	3,183.00
2 区		3. 22	449	4,836	10.6	1.49	7.20	15.67	1,384.00
3 区		4. 7	80	1,356	16.1	1.40	6.35	13.00	216.00

第3表 收穫調査 (1区3坪) 昭和28年度春

区 別	項 目	收穫日	收穫本数	收穫重量	一 本	平 均	單 價	金 額
					平均重	葉柄長	(5本1束)	
ビニール区		月 日	本	匁	匁	寸	円	円
		2. 24	169	964	7.7	9.4	16.00	528.00
		3. 1	264	1,529	8.9	10.1	16.00	832.00
		3. 13	366	3,171	11.6	12.1	18.00	1,314.00
		3. 26	192	2,554	13.0	14.3	16.00	608.00
		3. 31	44	436	12.7	12.5	16.00	128.00
		4. 10	158	2,092	18.1	15.4	10.00	310.00
	計		1,193	10,746	12.0	12.4	15.34	372.00
障子区		2. 24	39	178	5.2	7.2	16.00	112.00
		3. 1	90	451	7.2	9.2	11.00	198.00
		3. 13	255	1,991	10.3	9.7	14.00	714.00
		3. 26	138	1,782	15.3	14.3	16.00	432.00
		3. 31	61	682	12.4	12.4	16.00	192.00
		4. 10	184	1,996	11.6	13.3	10.00	360.00
		計	767	7,080	10.4	11.6	12.83	2,008.00

第4表 区別比較(3坪平均)昭和28年度

区別	項目	初收穫日	收穫本数	收穫重量	一平均		平均単價	金額
					本重	柄均長		
障子	ビニール	月日 2.24	169	964	匁 7.7	寸 9.4	円 16.00	円 528.00
	障子	2.24	39	178	5.2	7.2	16.00	112.00

ではあるが有利な栽培法である。ヨシズ区は前者に比し、生育稍劣り初收穫は若干遅れる様であり、品質、収量、収益も前者に次いで良好であつた。但し価格については時期及地域により多少の差異があり一概には言えないが3月下旬以降は概ね下落する傾向がある。

露地区では前2者に比較し極めて萌芽生育遅く初收穫は4月初旬で品質は葉柄短く下部太く粗剛であり収量収益共に少なかつた。以上の試験成績からして各様式の採入方は次の事が言えると思う。即ち、ビニール並に障子覆に依る促成栽培は甚だ有利であり季節的の需要から見ても、又勞力資材の面から見ても近郊園芸地帯等において早期出荷を目的として栽培する場合に応用するのが合理的と思われる。次にヨシズ覆に依る方法は海岸暖地又は降雪の少ない温暖な地形を活用して、3月下旬以降の或程度大量出荷用として栽培する場合に利用する事が有利であると思考される。